がんばろう
南三陸町
復興第22号

南三陸マイタウン情報 月刊

発行所
マイタウン企画
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84
TEL (46) 3069
後援：
志津川広報センター

いよいよ始まった
志津川地区高台移転土地造成

7月25日着工式
町長の合図で工事スタート

飛島建設･大豊建設・三井共同建設コンサルタント南三陸震災復興事業企業体が、UR都市再生機構と共に志津川地区復興まちづくり事業にあたり、東地区の災害公営住宅370戸と、津波復興拠点事業としての132戸の、戸建ての土地の造成を行う。

工藤宮司による安全祈願祭

10時30分からの「安全祈願祭」には、町長他関係職員と議会、志津川行政区長と地権者が出席した。上山八幡神宮の工藤宮司による、工事の安全祈願の神事がなされ、厳粛に榊奉納や、くわ入れの儀が関係者の代表により奉納された。雨の天候によりテントの中では「エイ、エイ、エイ」との、掛け声が響き渡った。宮司の神酒乾杯の中で、「仮設に入っている町民の一日も早い再建をお願いします」と言葉を添えた。飛島建設・安藤本部長が「一体的マネージメントの共同体で、町民の皆さまの思いが本日からスタートした」と挨拶を述べた。

11時からの着工式には、復興庁谷公一副大臣を迎え、国・県・町から100名以上の関係者が集まった。南三陸町の主体となる志津川地区の高台移転のスタートとあって、放送局や新聞社などのメディアが大勢集まり、南三陸町の再建の報道を全国に発信した。

佐藤仁町長あいさつ

式典の始めに「南三陸町憲章」を出席者全員が唱和し、町長が式辞を述べた。「志津川において最初の復興の場所。切り土は平地に盛り土として利用する」これからが正念場、町民一丸となって再建していきたいと話し、「先祖伝来の土地を提供してくれた地権者に感謝したいと語った。谷復興副大臣は「これほど多くの物を奪った災害はない」「心一つにして復興庁も精一杯取り組んでいく」と被災者を思い早期の再建を誓った。

その後で復興市街地整備課長から、東地区を中心とする「志津川地区復興まちづくり事業」の概要が説明された。当初の目標とする27年４月の開設を目指す、公立志津川病院とケアセンターの建設に向け、急ピッチで造成そして開設へと歩みを進める。

内職さん募集
各種電線の端末加工及び処理
◆係員が親切･丁寧に説明指導いたします。
◆家庭内での作業です。是非おためし下さい。
詳細については気軽にお問い合わせ下さい。
ワイヤープロセス
0226－46－9237　南三陸町戸倉荒町

南三陸町に笑顔をプレゼント
（南方仮設）

飯島マジッククラブ被災地公演

６月下旬に長野県飯島町の竹澤議員より、ジャガイモの物資とマジッククラブの公演で南三陸へ応援支援をしたい旨の話が我が社の方へありました。

一昨年はジャガイモ、昨年はネギを飯島町の宮澤さんという生産者の方が支援物資として送って下さった。今度は自分が主催している「飯島マジッククラブ」の会員６人と来町し、手品で仮設暮らしの南三陸町の皆さんに笑いを届けてくれた。長野を朝６時に竹澤さんの車で出発し、600ｋの道のりを走り、マジック公演を歌津の平成の森と南方の仮設で開催した。

今回はジャガイモ100ｋとお米を60ｋ、そして地元のお菓子を集まってくれた皆さんにくばった。

子供たちは本の中からのアメにビックリ！

30kづつのお米を自治会長さんは「仮設でのお祭りなどに活用します」と快く受け取ってくれた。

次号へつづく

6月定例議会　7議員が質問

◆千葉伸孝氏

①戸倉地区高台移転場所（旧ゴルフ場開発予定地）の造成と移転はいつか。②戸倉小学校、保育所の再建は。

佐藤町長　①戸倉小PTA、地域が防集団地の隣接地へ戸倉小学校を望んでおり、調整が必要となった。５月中旬に防集団地の宅地配置案を示したが、調整を望む意見があり、見直しの方向で再調整となった。住民意向に沿うよう検討している。合意形成が図られれば今秋に造成を発注し、27年度の完了を目指す。②本年度に用地の造成設計と造成を行うほか、校舎、体育館、プールの設計を行う。26年度早々に建設工事に着手し、27年度中に供用開始したい。保育所は戸倉団地内で複合多機能の子育て拠点とする計画だ。

◆鈴木春光氏

①戸倉在郷地内のがれき処理施設解体後の跡地利用は。②町道入谷横断線の修復拡幅整備を。③新たな町の防災、減災対策を。

佐藤町長　①県が農地として原型復旧して地権者に返却する。一部農家が園芸作物を栽培する予定と聞いている。②被災しない町道で優先度の高いものから補修を進めている。入谷横断線の拡幅は当初予算で調査費を計上した。③津波被害に関わらずハード、ソフト両面で積極的に進める。避難路の設定は防災計画の見直しで対応する。

産業復興課参事　①誰が営農するか地域でまだまとまっていない部分があり、町としても支援していく。

◆山内昇一氏

①復興加速に観光資源の活用を。②原発事故によるシイタケ栽培農家の支援策は。

佐藤町長　①払川ダムの完成、モアイ像の設置は今後の交流促進に向けた地域資源として期待は大きい。払川ダムでのボートなどは可能だろうが、問題は運営主体だ。被災したモアイもいずれ本設置したい。②町の原木シイタケは現在も出荷制限されている。東京電力では汚染された原木の撤去、新規購入費の損害賠償の方針を打ち出したが、市場で価格が低迷。出荷制限は続くとみられ、再開の見通しは当分厳しい。菌床栽培は施設内のため放射能の影響はないので、津波被害生産者に施設整備を支援している。

◆菅原辰雄氏

①震災復興祈念公園整備はどうなっている。②志津川市街地、周辺の土地利用計画は。

佐藤町長　①23.7㌶を整備することは整備費、維持管理費の課題があり、関係省庁の同意が得られず計画を見直している。整備するのは3.5～５㌶に縮小し、残る20㌶は自然土地利用とする。速やかに土地利用計画を作成し、関係省庁と協議したい。②被災市街地復興土地区画整理事業は９月の事業認可に向けて精査している。商業ゾーン、産業ゾーンを先行整備する。周辺の土地利用は御前下、小森地区にすでに商業施設が立地されているので農地の復旧事業計画は見込めない。廻館、中瀬町は農地・自然ゾーンと位置づけ、地権者と話し合いを進めている。

全国紙の報道から

南三陸町職員の死亡・不明者32名の特殊公務災害の申請が不認定となった

防災対策庁舎で死亡・行方不明の職員33人の遺族が、危険な公務中の災害だとして「特殊公務災害」の申請に対し、地方公務員災害補償基金が32名の遺族に対し、不認定とし１人については未決定とした。

東日本大震災による宮城・岩手・福島の３県で、公務災害が認められた自治体職員は281人あり、そのうち142人が特殊公務災害を申請し、今年５月時点で24人が認められている。大半が警察官や消防隊員で、自治体職員は庁舎外での避難誘導で３件で認められている。

南三陸町の遺族は「逃げればよかったのか」と話し、特殊災害に認されない事に、「無駄死にだったのか」と感じてしまうと話している。

南方仮設での支援活動

宮城・南三陸町の高齢被災者 登米市の仮設で苦悩［帰還希望半数割る］

登米市内の南三陸町仮設住民が河北新報のアンケートに、南三陸町に仮設退去後に居住したいが、48.2%と半数以下となった。登米市が20.8%で両町以外が３％となり、27.8%が「分らない」と答えた。（アンケートは６月11~15日の登米市仮設の129人に行った）

登米市南方イオン跡地の仮設の住民は、歩いて買い物にも行けるし、病院も車で数分の場所にあり、高齢者の生活には適している。前の見えない現状の中で、一日も早く安心して生活がしたいと話す。また、若い世代の人たちも、子供の学校教育と働く場の確保のため、町外での生活を選択する方も多い。

登米市に対する要望として「南三陸町の被災者に向けた公営住宅の建設を」との声も上がっている。

長野県飯島町から被災者慰問

未来への教訓

大津波の記憶を風化させない

平成25年（2013年） 5月の出来事

～ 地元報道より ～

◆キラキラとうに丼

南三陸町で5月1日から「キラキラうに丼」の販売が始まった。キラキラ丼の中で最も人気のある丼で、訪れた多くの観光客らが、たっぷり盛られた生ウニに舌鼓を打った。

◆水温低く遡上いまひとつ

南三陸町歌津地区の伊里前川で、今年もシロウオ漁が始まった。すでに捕獲するための仕掛け「ザワ」も設置されているが、水温が低いためか遡上するシロウオはあまり見られないという。

◆歌津大橋 撤去始まる

南三陸町の旧国道45号歌津大橋の撤去工事が始まった。震災で被災したままの状態であったが、今秋までにすべて撤去する予定となっている。

◆一日も早い犯人逮捕を

南三陸町志津川竹川原の工務店経営佐藤茂義さんと、妻のたけ子さんが自宅で刺殺された強盗殺人事件の発生から5月3日で11年となった。

この日は南三陸署の署員16人が中瀬町と廻館の住宅を回りチラシを配布して情報提供を呼び掛けた。事件に関する連絡は同署（46-3131）で受け付けている。

◆伊里前 仮設店舗周辺に形成

南三陸町歌津、伊里前商店街の再生計画案を盛り込んだ報告書がまとまった。現在、仮店舗で営業している福幸商店街周辺を中心に、新たな商店街を形成する計画となっており、今後、地元商店主らが具現化に向けて協議を進めていく予定だ。

南三陸福興市の開催により、田束山つつじ祭り、しろうお祭りの大盛況があった。
現在は整備された大駐車場が広がっていて、新たなイベントの開催が必要とされる。

◆体験と交流の場へ

南三陸町御前下地内に南三陸ポータルセンターが建設される。センターは2棟あり、教育旅行の体験学習を行ったり、地域住民が交流したりする施設で、7月の完成を目標にしている。

◆世界中の子ども教育支援

日本ユネスコ協会連盟と大手広告代理店「電通」が、南三陸町の間伐材で作ったポストで書き損じはがきを集めて換金し、世界中の子供たちの教育を支援する取り組みを始めた。

「南三陸の森　希望のポストプロジェクト」と銘打った取り組みで、ポストは今年中に全国100ケ所への設置を目指している。

◆ルールを守って自転車運転を

自転車安全利用指導強化月間にちなみ、南三陸署などは5月15日、志津川廻館地内で自転車の安全利用を呼び掛ける街頭啓発活動を行った。

同署員や志津川高校交通安全委員会の生徒、地域交通安全活動推進委員ら60人が参加し、登校中の高校生などにチラシ、ポケットティッシュを配り安全運転を呼び掛けた。

夏休みに学校は入ったが、中学校などの部活に通学バスが運行している。復興工事が本格的になり大型トラックや労働者の車が国道でのラッシュとなり、安全運転を警察は呼びかけている。

◆払川ダム完工

治水、利水を目的に建設された南三陸町歌津の払川ダム竣工式が5月18日、現地で行われた。村井知事をはじめ住民ら約150人が参加。テープカットの後、ダム湖「田束湖」の石碑の除幕や、ヤマメ約200匹の放流などが行われ完成を祝った。

利水・治水のダム工事も完成式典を終え、今後の観光地として町はその整備を模索する。
田束湖の湖畔には記念碑が設置され、観光客の姿も見られるようになった。

◆コアラ館前に花壇

南三陸町オーストラリア友好学習館（コアラ館）の建設を支援した豪州ニュージーランド銀行とレンドリース・ジャパンが5月17日、同学習館前に花壇を整備した。供用開始後に両者が訪問するのは初めてで、31人が広場に花壇を造りバラやローズマリー、ラベンダーなど約120本を植えた。

◆竹トンボに大喜び

南三陸町図書館による企画「竹トンボをつくろう」が5月20日、同館で行われた。

志津川、入谷両地区の小学生10人が参加。牛乳パックで羽、ストローで軸を作り、羽には絵を描いたりシールを貼り付けたりして完成させた。

この後、屋外で飛ばし、子供たちは「飛んだ、飛んだ」と歓声を上げていた。

◆個人向けツアー好評

南三陸町観光協会が個人旅行者向けの体験ツアープログラムを始めている。3～4月にはワカメ刈り体験や、5月20日には「きりこ」に関する講話を聴いたり、手作り体験をするなど、季節ごとのプログラムが用意され好評となっている。

◆お土産品「オクトパス君せんべい」

オクトパス君グッズの製造・販売を行っている南三陸町の南三陸復興ダコの会が、「オクトパス君せんべい」を開発した。せんべいには町内産タコと南三陸米を使用し、細かく刻んだタコがふんだんに練り込まれており、タコの煮汁などで味付けもされている。

◆平成の森で合同運動会

南三陸町立伊里前小学校と名足小学校の合同運動会が5月25日、平成の森しおかぜ球場で行われた。

合同運動会は今年で3回目となり、保護者や地域住民の声を背に、児童たちが青空の下を元気に駆け回った。

津波襲来の光景が中学校からの映像で時々流される。教育の場も高台へと進む中、生徒の減少から26年4月の統合へと動きが進められている。

◆新生志中開校準備委を発足

南三陸町立志津川中学校と戸倉中学校が来年4月に統合するのに伴い、5月27日に新生志津川中学校開校準備委員会が設立された。

両校と関係小学校のPTA本部役員らで組織され、来年3月まで校歌や校章、制服などについて話し合っていく。

◆虫歯予防でフッ素うがい

南三陸町は町内すべての保育所、幼稚園で虫歯予防のためにうがいをする「フッ化物洗口」に取り組み始める。

子供の虫歯の数は以前から県内最多レベルにある上、震災による状況変化から虫歯を増やす要因が多くなっている。各幼児施設では歯磨き後の習慣とし、虫歯予防に取り組む。

本吉郡級位審査全員合格

7月21日（日）伊里前小学校体育館において、平成25年度の級位審査が開催され、本吉郡内から2級から7級までの27名の受験者が集まり全員が合格した。

本吉郡剣道連盟の3人の先生方による審査で、礼儀から初作そして打込み実稽古まで、厳しい試験が行なわれた。総評では「声が小さい」と指摘されたが、「木刀の稽古は立派」だったと講評をいただいた。

引き続き**「平成25年度本吉郡小学生剣道大会」**が開催された。小野寺郡連会長は「地域の代表として県では試合をしてほしい」と挨拶で述べた。選手宣誓では歌津道合剣道の阿部聖哉君が「正々堂々と戦います」と強く宣誓をした。この大会で4年から6年生までの男女2名が個人での県大会へ本吉郡代表として出場する。

（大会の成績結果）

○団体の部　優勝　道合剣道スポ少A　第2位　雄飛剣道会　第3位　本吉剣友会・志津川スポ少連合チーム

○個人の部　3年生以下の部（男女混合）第1位　三浦誠矢（志津川）　4年生男子　第1位　阿部修大（雄飛）　第2位　伊藤亮介（道合）　5年生男子　第1位　阿部誠司（道合）　第2位　高橋明将（本吉）　5年生女子　第1位　三浦愛美（雄飛）　6年生男子　第1位　阿部聖哉（道合）　第2位　千葉聖音（道合）

本吉・志津川連合チーム

現在、本吉郡内のスポーツ少年団では団員不足が問題となっている。今回「本吉剣友会」の団員2人と「志津川剣道スポ少」の2人の連合にもう一人を加え連合チームで大会に参加し、団体戦を1チーム増やす事ができた。これから中学校での剣道部に入りたいとの子供たちに、多くの試合体験が必要で、小学生からのスポ少での剣道体験することで、基本と試合感を小学生から身に付ける事ができる。歌津でスポ少を卒業した**歌津女子剣道部が県大会で準優勝**の栄冠に輝いた。

夏の暑いひとときを
楽しく過ごしましょう！

ハイム・メアーズ夏祭り

日　時：**8月18日（日）**
午後4時から午後6時まで

場　所：**ハイム・メアーズ駐車場**
（雨天時は1階フロアで行います）

催し物：千厩八幡太鼓、職員によるトコヤッサイ、お楽しみ抽選会

屋　台：焼き鳥、たこ焼き、やきそば、玉こん、からあげ、かき氷、ジュース、ビール、射的

皆様のご来場を心よりお待ちしております

介護老人保健施設 ハイム・メアーズ

南三陸町志津川字袖浜255番地
電話 0226－46－2772